

## 進行胃癌に対する術前病期診断による予後予測能についての附随研究

### (JCOG1302A2) について

本調査研究の概要を以下に示します。【対象】に該当すると思われる方で、本調査研究に関するお問い合わせや調査の対象となることを希望されない場合は、担当医にお申し出ください。

#### 【本調査研究の目的】

胃癌の治療効果や予後は進行度別の5年生存割合で評価し、進行度が進むほど5年生存割合が低くなります。進行度は手術で切除された組織を、詳細に調べて確定した病理分類と、治療前にCT検査などの画像検査で推定した臨床分類があります。

手術後に明らかになる病理分類による進行度別の5年生存割合はこれまでの治療データの蓄積により明らかにされていますが、治療開始前の臨床分類による進行度別の5年生存割合については、画像検査による進行度の明確な診断規準がなく、十分なデータがありません。そのため治療に先立ち生存期間を予測することができませんでした。

本研究の本体研究にあたるJCOG1302Aでは、CTなどの画像検査で得られる特徴的な所見について進行度の診断に明確な規準を設け、治療前の臨床診断の病理診断に対する予測精度が検討されました。JCOG1302Aに参加され治療を受けた患者さんの5年生存割合を調査することで、明確な診断規準で診断された臨床分類の進行度別の予後を知ることができます。

本研究によって、治療に先立ち生存期間を予測ことができ、治療法の決定に重要な情報が得られます。高い治療効果が期待できる一方でリスクを伴う治療を、予後不良と予測される患者さんに限って行うことができ、予後が良好と予測される患者さんには行わないことで治療に伴う過剰なリスクを回避できるようになると考えています。

#### 【対象】

JCOG1302A「ステージⅠⅠⅠ胃癌に対する術前診断の妥当性についての研究」に参加して治療を受けられた方が対象です。

#### 【調査項目】

本研究では、JCOG1302Aで収集された臨床分類による病期診断のデータに加え、治療後の経過に関する情報を収集します。また、長期経過に関連する臨床情報（治療開始時の重複癌、基礎疾患の有無/術後補助化学療法実施の有無）も収集し、臨床分類の病期診断のデータとあわせて解析します。本研究によって、新たな受診や検査など、患者さんに対する新たな負担は生じません。

なお、必要な情報のみを統計資料として集計しますので、患者さんのお名前など個人を特定できる情報が明らかになることはありませんので、ご安心ください。

**【研究期間】**

承認日から 2024 年 6 月 30 日（調査状況により調査期間を延長する可能性があります）

**【研究機関・組織】**

JCOG（Japan Clinical Oncology Group：日本臨床腫瘍研究グループ）胃がんグループ

**【研究代表者】**

吉川 貴己

国立がん研究センター中央病院 胃外科

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

TEL：03-3542-2511

FAX：03-3542-3815

**【研究事務局】**

林 勉

国立がん研究センター中央病院 胃外科

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

TEL：03-3542-2511

FAX：03-3542-3815

**【当院の研究責任者】**

杉村 啓二郎

関西労災病院 消化器外科

〒660-8511 兵庫県尼崎市稲葉荘 3-1-69

TEL：06-6416-1221（代表）

FAX：06-6419-1870（代表）